

総務常任委員会行政視察

提出者 吉田 つとむ

令和元年5月15日（水）～令和元年5月17日（金）

鳥取市 令和元年5月15日（水）

鳥取市ファシリティーマネージメントの取り組みについて

<概要>

自治体ではその施設更新が大きな課題になっています。

ファシリティーマネージメントとは、「企業・団体等が組織活動のために、施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動」（同協会）とされています。

鳥取市においては、市町村合併により増加した公共施設、公共施設の更新時期の到来による財政負担の集中、老朽化する公共施設の更新費用の確保の3点を上げ、「限られた予算（財源）の中、老朽化する施設管理をどうするか」と提起されています。



<所感>

説明によれば、さいたま市が先行してファシリティーマネージメントの考え方を普及したとされました。全国を対象にした大会が開催されており、東京大会と地方大会が行われているとのことでした。町田市がそれに参加しているか

どうかを知らず、良い説明を聞きました。

鳥取市と町田市の大きな違いは、町村合併です。鳥取市は、1889年（明治22年）に市政施行を行い、その後戦前、戦後を通じて、順次周辺町村を編入し、最期は2004年（平成16年）に大きく周辺町村を編入し、その翌年、2005年（平成17年）10月1日・山陰初の特例市に指定されています。

町田市は、1958年（昭和33年）町田町（54年に南村と旧町田町が合併済み）、鶴川村、忠生村、堺村の1町3村が対等合併、市制施行し、町田市となるわけで、その後、町田市は町村合併を一度も行っていない。人口は、43万人となっていますが、未だに特例市を目指す考えがなく、東京都に頼った市政を行っています。

町田市は合併して61年を超し、そのコストは算出することもないでしょうが、その点、鳥取市はまだまだその影響が残っていると思われます。本来、施設の集約が行われるものが、総合支所などの名称で事業の存続が行われているようです。また、町田市は人口集積が続いたことで、学校などの新設建設が続いたと言われてきました。最近では、総体の人口が平衡状態に沿っていますが、増大地区と減少地域に分かれているのも特徴になっています。

町田市と鳥取市の手法の違いは、次の点にあるようです。

鳥取市の場合は、ファシリティー・マネージメントの方法が、整理縮小が基本にあり、端的に言えば、施設の維持か、廃止が問われる体制になっていました。

町田市の場合は、人口の増大地区と減少地域に分かれていることも相まって、片方では施設の廃止を行い、他方で新たな施設建設を進めている点です。そのための方法で、施設の移転集約の方法が取られていますが、廃止・削減される地域ではその反発も生じています。

鳥取市の例が参考になるようです。